

鹿沼の木材 夢の舞台へ

～鹿沼の森林・木材と「森林認証」～

林政課木のまち推進係 ☎(63)2186

市の面積の約7割を森林が占め、その豊かな森林資源により、林業や木材産業の盛んな「木のまち」として発展してきた鹿沼市。

2020年7月の東京オリンピック・パラリンピックでは、大会関連施設への鹿沼産森林認証材の使用が決まりました。

東京五輪開催まであと1年。今回は、東京五輪に向けた本市の木材に関する取り組みと、良質な森林と木材の証である「森林認証」について紹介します。

東京オリンピック・パラリンピックまであと1年

高い品質や確立された流通体制が評価され、東京五輪の大会関連施設へ使用されることとなった鹿沼産森林認証材。

新国立競技場のスタジアム外周を囲む軒庇^{のきりさし}と、スタンド観客席を覆う大屋根にスギ材が使用されるほか、バレーボール等の会場となる有明アリーナでは、屋根構造材として丸太約1,700本分のスギ材が使用されます。

また、鹿沼市は、全国の自治体から公募した木材によって選手村ビレッジプラザを建設する「日本の木材活用リレー」事業にも参加しており、原木丸太180本分のスギ材を納める予定です。大会終了後、使用された木材は、施設の解体とともに各自治体に返却され、大会の記念遺産（レガシー）と

して公共施設などに活用されます。

こうした木材の供給は、全て市森林認証協議会の構成員である市内の業者の協力によるものです。



▲「日本の木材活用リレー」の感謝状とエンブレム

鹿沼産森林認証材の活用を促進します

本市では、市の林業・木材産業の振興等を目的とし、平成28年3月に、森林所有者と生産から加工・流通・建築等までの関係者が連携し「鹿沼市森林認証協議会」を設立、同6月に「森林認証」を取得しました。

販路や利用の拡大のため、今後も森林認証材を使った商品・製品の流通を促進していきます。



▲機械による製材作業



▲集積された認証材の丸太

森林認証制度

第三者機関が、経済的な持続性や環境保全への配慮等に関して森林管理を認定する「FM認証」と、認証された森林から産出される木材や木製品の適切な流通や管理を認証する「CoC認証」の2つの認証により適正に管理された森林から得られた木材を確実に消費者に届けるとともに、生物多様性の保全や持続可能な森林経営を支援する制度です。



▲森林認証材のロゴマーク



▲鹿沼産森林認証材を使用した学習机・椅子